時觀

一、八紘一宇は侵略的意味でない

衆議院豫算總會に於て北吟吉氏は八紘一宇の意味が種々異なつた意味に解釋されてゐる政府の責任ある答辯を求めたに對し、松浦文相は政府を代表して其の答辯を爲して居る。其の中に「八紘一宇と申すのは神武天皇御創業の大精神でありまして、宏大無邊の御仁德をあまねく天下に布き廣め給はんとの大御心であると拜察を致されるのであります。この言葉を現在に置きまして、我國は此の御精神によつて外國に臨むといふ場合においては何處までもこれは一つの精神的意味を持つのでありまして侵略的な意味といふやうな左樣な意味は持つて居らぬと考へるのであります」

トウミン

と述べられて居る。政府當局の意見として吾人は謹んで可然ものと考へる。乍去今日吾人の熟考しなければならぬことは昭和十二年三月文部省より公刊せられた「國體の本義」に――まことに禍を拂ひ、道を布き、彌々廣く開け行く我が國の輝かしい發展の道を示し給ふたものである――と記してある。問者は既に之を精讀せられた所であらうか、吾人は世には自己の低調なる精神、淺薄なる知能に依りて妄りに勅語を解釋し彼是賢しくも公にするものがある。萬一勅意を歪曲誤解するが如きことありては不敬となる。愼しむべきは勅語の私解である。學術上の意見乃至解釋は之を批評し、是非し、檢討すべきものであるか、勅語は日本國民として唯一に奉體して翼贊し奉るの外なきものと謂はな

ければならぬ。神武天皇御即位の勅語を今日拜誦して其の意味の那邊にあるかを質疑するよりも、寧ろ服從、犧牲、和合の精神と國運の無限に發展し行く希望とを以て之を日常生活の上に實踐し、躬行し、國民として各々其の立場立場に於ての責任を盡すべきである。即ち國民は自省し、熟慮し、臣民道に邁進して以て今日の時難を克服しなければならぬと信ずる。

二、日本國民は誠意と實行あるのみ

有名な高島米峰翁はA新聞に投稿して――

◇炭屋曰く『炭が無いのぢやありません、旦那のやうに公定價格以上に賣れば叱られさうなお客に對しては、品が無いと言つて斷ることになります。』

◇百貨店曰く『公定價格のきまつて居る品は、店の體面上、高く賣る譯にゆかない。そこをねらつて、市中の○○○が買ひに來る。そこでお馴染以外の方には、品切だと言つて斷つてしまひます。』

◇産科の病院曰く『脱脂綿持參で無ければ、入院はお斷り致します。』

◇女學生曰く『恥かしいですけど、脱脂綿が買へないので、私達みんな困つてゐます。代用品もあるといふことですが、脱脂も消毒も十分でせうか。何だか危險で仕方がありません。』

◇母親曰く『乳が出ないのに、粉ミルクが手に入らないので、坊やが段々痩せてしまひます。』

◇看護婦曰く『吸入用のアルコールが不足なので、この感冒流行時に手當が十分行屆がないので困つて居ります。』

◇藥屋曰く『脱脂綿だつて、アルコールだつて、ミルクだつて、全く無いのぢやありません。公定價格で賣るのはつまらないから、明るみへ出て來なくなつたのでないかと思ひます。』

◇錢湯政治家曰く『つまり、公定價格がきめられたために、有る品が無いといふ形になり、その有る品を手に入れようとすれば、それは闇取引だから罰するといふ。物價を

高くしないための國策が、逆にグン〳〵物價を高くして居る上に、有る品が無いことになるばかりです。產めよと言はれて產むことも出來ず、折角產んでも育てることが出來ないとあつては、一體、國民は、どうすればよいのか。』

◇僕曰く『どうすればよいかをお役人だけに任せて置かずに、お互に考へませう。』

――と考へた丈けで道が開かゝるならば物の不足も何かあらん、公定價格も役立たぬべし。空前の國難に直面したる今日、吾人日本國民は唯誠意と實行なるのみ。

三、我國民は一段と訓練を要す

人生の事、訓練を經ざる所に實力を發揮するを得ないものである。保羅曰く患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ずと自然の環境と位置と天祐とに惠まれたる日本國民として今日程患難を感ずる時代は曾て見られなかつた。國際間の複雜怪奇を極めた帝國への難問題、日常必需品の不足乃至闇取引、遠慮勝ちな不徹底な經濟の統制、利潤の跛行的措置、俸給生活者の物價高の苦痛、深刻なる物資の缺乏等々空前の不自由さをしみ〳〵感ぜしめらるるの甚しき情態であることは言ふまでもなく、今後益々其度は加重せらるるであらう。だが之を忍び、之に耐へ、練達に練達を加ふべきを厭ふことがあつてはならぬ。蘆溝橋事件から起生して蔣政權の膺懲となり、轉じて東亞新秩序建設の總力戰となり、事變處理と國內革新とは必至の情勢にまで押し進んで來たので、此犧牲的要望の始末を遂ぐる爲めには、己を虛しくして國家の將來の爲めに力のあらん限を盡さねばならぬ。「統制經濟の合理的强化を伴はずして物動計畫、生產力擴充計畫を遂行するの望みはあるまい。經濟の全面的な統制計畫化は、鞏固なる意思の繼續を必要とし、國民全體の協力の基礎に立脚するを缺くべからざる事とす。斯樣に考へて來ると日本が今何を必要とするかが分明になつて來る。內外の情勢の困難さを十分に認識し、これを打開する對策を練つて居る。誠のある人先づ國民全體が各々犧牲を忍んで國家の爲めに協力せねばならぬ所

以を明かにし、國民の協力を生かすために政治經濟上の再編成を斷行する氣魄を以て起ちあがり。不消化が豫知せらるるにかゝわらず、大豫算を鵜呑みにしたり、責任を知らざる一部の人々が國民總力の發揮を忘れて獨斷專行するを默視したり、安易な神かゝり的思想にかくれて正當に成長するものを妨げるを許すが如き卑屈な態度をかなぐり捨てよ」——との平貞藏氏の所說は大體理解せざるを得ない。政治家も經濟人も學者も並の國民も心して大訓練を經るの覺悟あるを必要とするは、敢て多言を費すに及ばないことである。仁愛の化を以て下國民を導かせ給ふ　皇恩に對し忠厚の俗を以て奉する所なかるべからざる次第である。

四、建設的か創造的か

第七十五回帝國議會は長期興亞建設を目指して戰ひつゝあるサ中に於て開かれ、既に會期の三分二を經過す。百三億の豫算、革新的制稅の改正、地方分與稅制度の新設曰く何曰く何と殆んど前例なき重大な議案が次から次へと審議されつゝある。其の間派生的事件も發生したか、何だか重苦しい門外漢には不可解の暗流が示唆される。就中齋藤隆夫氏懲罰事件の如き事實の明白なるに拘はらず、案外事の複雜怪奇性なるが如き感も與へらるる。事の眞相果して如何、一般國民は一種の謎と見るの外はない。政黨對何物かが存在するが如き秘狀はなきか。議員は至公至平此の非常時局の議會としての論議が行はれ、設令院外無責任の自由を有するとも議員の自肅自戒に依つて議會の尊嚴をたもちつゝ現下の國情に照らし、熱意を以て國民の總意を反映せしめねばならぬ、議論のためにする議論であつてはならぬ、質問の爲めにする質問であつてはならぬ。況んや政黨の爲の懸引工作に基く言論が行はれてはならぬ、國民をして昏迷に陷らしむるが如き論議があつてはならぬ、誠意を以ての言論には誠意を以て對すべく、苟くも議院內に於ては議員に威嚇を感ぜしめてはならぬ、重壓を加へてはならぬ、須らく純眞なる態度と忠誠なる心構を以て建設性を有する議會たらしむべく、創造性を有する議會たらしむべきであ

る。時局下の議會としての特質を克く發揮し得るやうに、政治家たる爲政者議員各位に千思萬考を切望する。

五、皇業の翼賛は簡人に在り

曾て平沼總理大臣は皇道政治とは何ぞやとの問に對して皇道政治とは個人主義にあらず、また全體主義にもあらずとの意を以て答へられた。實に個人を重し個人主義を過重すれば往々全體を顧みないこととなる。全體主義を過重すれば個性を沒却するの弊を生ず、思想の偏倚する所寔に恐るべく、憂ふべきことである。畏多くも明治天皇は「今般朝政一新時ニ膺リ天下億兆一人モ其處ヲ得ザル時ハ皆朕カ罪ナレバ」とのたまわせられたと謹承す。寔に恐懼の至りである。更らに天平寶字三年六月　淳仁天皇は詔して父兄誠ならずんば、斯に何を以てか子弟を導かせ、官吏行はずんば此に何を以てか士民を教へんと國を治むるの要は人を簡ふに加かざるの義を昭示して、內外の官人を教誡せられ給ふた。此の詔勅を奉誦し、今更の如く皇恩の宏大深厚なるに感激する所である。爲政者は國民の與り知らんとする所に明察し、國民の思潮に稽へ、民心の歸趨に慮り、民意を統一して克く協力輔翼を完行せしむるの用意を缺いではならない。ドイツやイタリアに於ての政治獨裁を思ひのまゝなるものと誤解してはならない。能く國民の要望する所を察し其信頼を收むるの政策を講じ、有能の士を簡拔して事に當らしむるの事實を閑却しては、意外の結果を見ることなきを保し難いのである。

六、米國民の對日意圖は勝か敗か

日米問題に關し米國に於ては昨年十二月十四日のニューヨーク市公會堂でタウン・ミーチングの席上、對日禁輸とか新條約締結とが議題として取り上げられ三人の辨士と聽衆との間に痛烈な質問が行はれ、且辨士の所說對質がN・B・C放送局から全國に放送され、非常なセンセイションを捲き起して居るといふ。三人の辨士は前アジヤ艦隊司令長官ハリー・ヤーネル提督、山西省に在りし醫師兼宣教師

ウオルター・ジヤツト博士、元駐日大使で嘗て國務次官たりしウイリアム・キヤツスル氏で、ヤーネル氏は極東事態解決策として、列國會議を開きて理解ある條約を結べと述べ、ジヤツド博士は新條約よりも日本の撤兵が先決と叫び、キヤツスル氏は極東問題は日米間を無條約狀態に放置するは兩國の損失なれば、速かに國務省は一日も早く新條約歸結のイニシアテイーヴを取るべきである。又大統領のいつたやうに對日禁輸は日米戰爭への近道であるから、世界を破壞する大戰爭の原因となることから手を引き、米國は如何なる場合にも平和の道を歩み續けることを希望すると報ぜらる。米國にもキヤツスル氏から聞く耳をもつ者が少なくないので日本政府は駐支軍をよく指導し、軍隊自體も非常に理性的になつたとの認識を與へたとのことである、更らに一段と日米親善の方策を考ふるのが必須的問題たるに注意すべきであらう。

狐十句（冬と春）

田中野狐禪

沼尻を尾根へ狐火闇濃から
葦深く消へて寂けし畫狐
風に曉けて空しき一夜狐罠
狐火の行くてにありぬ身社立ち
蹄の色に火を警めつ狐啼く
檻の狐見廻り更けて月寒し
狐啼くや月の樺太雪更けて
春寒み銀狐の毛皮掛け捨てに
狐めく女の顏やおぼろ月
犬か狐か身を顰へし陽炎へる